火鎮祭

# 鳶ヶ池中新相撲場で熱戦を展開

五月十五日に火鎮祭が行われ、第七回わんぱく相撲大会などが開かれて豆力士たちが盛んな声援のなか、熱戦を繰り広げました。

この相撲大会は、例年市民体育館の相撲場で行われていますが、今年は四月二十四日に鳶ヶ池中学校の相撲場が完成したのを祝って、鳶ヶ池中学校で行われました。

わんぱく相撲大会に先立ち、午前中には第十八回県下中学春季相撲選手権大会と第十二回県下消防署（団）対抗相撲大会があり、県下中学春季相撲選手権大会では南海Aが団体優勝、南海Aの柳川信行さんが個人優勝。続いて行われた県下消防署（団）対抗相撲大会では南国Aが団体優勝、南国Cの岡田直人さんが個人優勝を果たしました。

午後からのわんぱく相撲大会には、市内の五小学校から十八チーム、六十人が参加、結果は次のとおりです。

【団体】優勝＝長岡A（坂本貴司、松村信、矢野友久）、準優勝＝国府A、三位＝稲生A

【個人】

○四年生以下の部

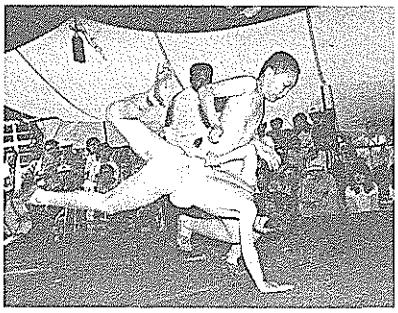
優勝＝三谷隆仁（稲生A）、準優勝＝大久保壮朗（稲生B）、三位＝岩原大輔（国府A）

○五年生の部

優勝＝松村信（長岡A）、準優勝＝福重和生（稲生A）、三位＝吉川晃介（国府A）

○六年生の部

優勝＝武市敏（十市B）、準優勝＝土居広明（十市A）、三位＝矢野智久（長岡A）



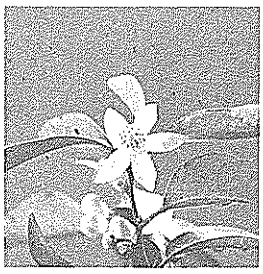
勝負あった

# 白木谷のタチバナを戦没者共同墓地に移植

市では、五月十六日に県の天然記念物である白木谷の自生のタチバナ七本のうち、二本を石灰石の採掘に伴い移植しました。

タチバナは昔、常世の木の実として珍重がられて奈良時代から好んで庭に植えられたと言われ、特に紫宸殿のものは、「右近のタチバナ、左近の桜」と並び称されるほどです。また、その花は「市の花」に指定されています。

白木谷では、中山や一道木などにタチバナが点在して自生していますが、このなかで川鉄工業㈱の石灰石採掘地に生えている木が二本あり、同社ではこのまま採掘を進めると枯れる恐れがあると判断、昨年十一月に移植の申請を市に提出していました。十二月には県の許可も下り、この度数百㍍離れた戦没者共同墓地に移植されました。



「市の花」タチバナ

あゆみ

# 不思議な子

家庭教育専任講師　田植　静代

中岡ひとみちゃんは、小学校の一年生です。落ち着いた、とてもかわいらしい女の子です。

受け持ちの先生が、学級のみんなの帳面に丸をつけることになり、みんなが一列に並びました。

ひとみちゃんの番がきて、丸がつけ終わると、ひとみちゃんはにっこり笑って、「先生、ありがとうございます」と、あいさつをしました。

先生はびっくりして、「よく、ごあいさつができましたね」と、頭をなでてあげました。

ひとみちゃんは、先生が子供たちの机の上にプリントを配っても、自分のところに来ると、「先生、ありがとうございます」と言うのです。

給食のミルクを配ってあげると、またまた、先生を見上げてあいさつができました。先生は、「ひとみちゃんはなんてごあいさつが上手なのでしょう。とても気持ちがよいですね」と、褒めました。

すると、ひとみちゃんと並んでいる横の子も、前の子も後ろの子もみんなみんな「先生、ありがとうございます」と、あいさつしました。そして、その学級はあいさつの学級になりました。

家庭訪問がありました。先生はお母さんにあいさつの話をして、「どんなにしつけをなさったのですか。」と、聞きました。するとお母さんは、「あら、幼稚園のときも幼稚園の先生に同じことを聞かれたのですよ。私は別にしつけなどしていないのですけれど」と、首を傾けました。そして「先生、そういえばあの子ちょっと不思議な子なのです。夏昼寝していて、おなかに掛けてあったタオルがとんでいたので、掛け直してやったら、パッと目をあけ、私の顔をじっと見ていましたが『お母さんありがとうございます』と言って、また眠ってしまいました」と話されました。

ほんとうに不思議なお子さんですね。

ひとみちゃんのお母さんもそれはゆったりとしてもの静かで、優しいもの言いのお母さんでした。

五月より毎月一日号に家庭教育学級からのお便りを出しています。かわいいお子さんやお母さん方へ、なんらかのお役に立てばと考えています。